

保健所におけるシミュレーション訓練の有用性

北海道胆振保健福祉事務所保健福祉部（北海道室蘭保健所） 荒田 吉彦

地域保健対策検討会中間報告は「保健所を中心とした地域における健康危機管理体制の構築」を大きな柱としてまとめられている。以下に、概要版の記載を引用する。

健康危機管理に対しては、公衆衛生の専門家が、現場における「最初の対処者」となる。健康危機が発生した場合、その初動を担うのは、専門技術職員が配置されており、地域保健の第一線機関である保健所が最も適している。

保健所における健康危機管理においては、重大健康危機や医療安全への対応の強化充実が望まれるとともに、今後新たに対応すべき課題として、初動時に原因の特定できない健康危機の事例への対応、生物テロ等、虐待、公衆衛生上問題のあると考えられる死体の死因調査、災害時の対策が挙げられる。

保健所は地域における健康危機管理体制の拠点として、地方衛生研究所は技術的・専門的支援機関として、それぞれ位置付けを明確にし、有事のみならず平時及び事後の対応を十分行えるように機能の強化を図るとともに、今後は、これまで以上に健康危機管理を、業務の核とするべきである。

保健所としての健康危機管理能力を高めるために最も効率的で有効な方法は、実際に大きな事件を体験すること（可能であれば、マスコミ対応も保健所が前面に立って対応すること）である。限られた時間の中で経験値が飛躍的にアップすることは保障できるが、寿命も縮まるのではないかと思えるほどのストレスがセットでついてくることを覚悟する必要がある。そのため、多くの保健所長・保健所職員は平時にその能力を向上する方策を検討することになるし、運良く事件に遭遇することができた保健所はその経験を他の保健所に伝える義務を負うことになる。伝達手段は様々な方法が想定されるが、最も効果的な方法として、現場の切迫した状況に身を置いて追体験しながら頭を悩ますこと、すなわちシミュレーション教材を活用した参加型研修の実施は非常に有用であると考えられる。

平成 15 年度は、SARS をめぐる切迫した状況の中で保健所の健康危機管理能力は飛躍的に向上した。厚生労働科学研究補助金「大規模感染症発生時における行政機関、医療機関の間の広域連携に関する研究」（大久保班藤本グループ）の調査結果においても、健康危機管理に関する研修が保健所内外で頻繁に開催されており、これまで実施されることの少なかったシミュレーション演習や実地訓練等も実施されている。しかし、平成 16 年 4 月～11 月についての調査では、参加型研修（ここではシミュレーション演習、実地訓練を総称）を実施している保健所は 35.5%にとどまり、年度内実施予定の保健所を加えても約 6 割程度にとどまっている。また、参加型研修を継続的に行う体制の整備については、整っていないとの回答は 43.7%と半数に満たない状況であり、整っていない理由としては、ノウハウ

の不足（27.4%）・人材の不足（20.2%）が目立つ。現在の保健所の状況は、決して地域の健康危機管理の拠点と胸を張って言える状況にはない。

今後、保健所としては健康危機管理の事例を収集する必要があるし、新たに保健所が担うべき健康危機に関しても想定されるシナリオを作成し、対応の準備を進める必要がある。健康危機管理に特化してはいないものの、平成16年度地域保健総合推進事業「保健所における一般業務に関するシミュレーションの教材の作成（岸本益実班長）」においては、シミュレーション用教材を16事例収録したCD-ROMを全国の保健所に配布している。この事業を含め、全国の保健所が体験した事例を系統的に収集する仕組みが必要である。また、新医師臨床研修「地域保健・医療」において研修医を保健所で受け入れるにあたっては、研修期間中に健康危機管理事例が発生しない場合に備えて健康危機管理シミュレーションを準備しておくことにより、魅力ある研修とすることができるのではないかと。

御 略 歴

荒田 吉彦 北海道胆振保健福祉事務所保健福祉部（北海道室蘭保健所）

プロフィール（経歴）

1982（昭和57）年 北海道大学工学部資源開発工学科卒業
1991（平成3）年 札幌医科大学医学部卒業、当別保健所医師
1992（平成4）年 帯広保健所医師
1993（平成5）年 帯広保健所主任技師、10月広尾保健所長
1997（平成9）年 砂川保健所長兼美唄保健所長
1998（平成10）年 滝川保健所長
2000（平成12）年 道高齢者保健福祉課兼介護保険課医療参事
2002（平成14）年 釧路保健所長
2005（平成17）年 室蘭保健所長

工学部では石炭の掘り方を勉強、炭鉱実習も経験しています。
札幌医大公衆衛生教室助手を兼務。